

グローバル市場におけるイスラム金融システムの意義

国際協力銀行 吉田悦章

わが国においても関心が高まりつつあるイスラム金融は、その名が一見与える印象とは異なり、多くの国際的金融機関が取り組みを進めているグローバルな側面を持った金融システムとの位置づけが確立されつつある。本報告では、こうした問題意識をもとに、グローバル市場におけるイスラム金融システムの意義について考える。

まず、本論の前提となる、イスラム金融の概要や成長の現状について簡単に述べ、基本的取引スキームや一般の（＝イスラム式でない）金融取引との親和性について確認する。近年のイスラム金融市場では、HSBC、シティグループ、ドイチェ、UBS等の大手国際的金融機関が取り組みを深めており、それらの機関が得意とする（＝イスラム各国の地場商業銀行に比して相対的な競争優位を有する）投資銀行業務や資産運用業務がイスラム金融ビジネスの中でも際立って伸びている分野であり、実際に、イスラム金融市場の拡大の背景には、こうした金融機関が強みを持つイスラム債（スクーク）やプロジェクト・ファイナンスといった大口のホールセール取引が大きく寄与している。

そして、イスラム金融がグローバル金融システムに貢献し得る可能性を示す。しばしば指摘されるように、原油高を背景に中東諸国の投資家からの資金フローが他地域金融市場に種々の影響を与えている。こうした中で、イスラム金融は、イスラム式資金運用者と一般金融システムとの“仲介”機能、それらによる資金フロー・チャネルの多様化と金融システムの安定といった機能を果たしている可能性が高い。政策面では、とくにアジア域内における通貨システムの安定への貢献が展望されている。

イスラム金融がこのようにグローバル展開をみせる中で、多くの問題に直面していることも事実である。代表的なものを挙げれば、①イスラム法解釈の地域・学者間の差異、②金融機関のバーゼル規制対応やコーポレート・ガバナンス、③各国における規制や銀行監督体制の相違等がある。これらに対処することなどを目的として、関係各国中央銀行等により国際機関「イスラム金融サービス委員会」（IFSB）が設立されるなどしている。こうした機関による幾つかの取り組みも、グローバル化におけるイスラム金融の位置づけを高める試みの一つと考えられる。

最後に、今後考えられる研究の方向性について簡単に触れる。まず、グローバル化を可能とした一因でもある、一般金融との比較における経済合理性について触れる。一般の金融取引とイスラム式取引との間で生じる価格差について、その発生過程や裁定の可能性はイスラム金融市場グローバル化の足跡を追い今後を占う上で興味深い課題である。次に、商品開発の現状につき言及する。ヘッジツールとしてのイスラム式デリバティブの開発・普及は、イスラム金融市場そのものの成長にも、金融システムへの貢献という点でも、重要な課題となっている。